

(1) 平成24年2月16日

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成24年2月16日
第45号

京都日蓮聖人門下連合会の歴史を紐解く



京都日蓮聖人門下連合会 理事長 藤井照源

◆立教開宗に始まる
京都日蓮聖人門下連合会の歴史を紐解く時、出発点は日蓮聖人の比叡山横川定光院を主たる道場として勉強された近畿御遊

学十二年と考える。「釈尊出世の本概」は何かを探求すべく、八宗兼学され、法華経こそが真実の教えである事を悟られ立教開宗へと繋がっていく。

◆京都弘通

日蓮聖人は法華経こそが、「釈尊出世の本懐」と悟られ「一天四海皆歸妙法」を目標に法華経弘通に向けて歩まれた。しかし、近畿遊学で得られた法華経を帝都弘通で伝えたいとの思いは、かなり深いものと思われ、自分の力でその願望を叶えることが出来ず、その思いを弟子経一丸(後の日像上人)に託されたのである。

◆京都の歴史と土壌

今を去る七百十七年前の永仁二年(一一九四)に上洛され、同五年(一一九七)四月二十八



御会式



立教開宗会



市中行脚

精神を護り、復興、再興して新しい出発へ向かうのである。

◆京門連との団結

釈尊御降誕花まつりが日蓮宗・法華宗派合同で営まれ、昭和三十二年(一九五七)十月九日聖祖門下連合会として復活第一回日蓮大聖人お会式万灯行列が盛況裏に奉行。円山公園音楽堂から大本山本能寺迄大行進した。聖祖門下連合会も盛大に運営されるが、各宗・各派・各教団の教学、組織等の問題をうけて、協議を重ね、同三十八年(一九六三)「聖祖門下連合会規約」を成文化した。

そして時は経ち、機は熟し、昭和四十年(一九六五)三月十八日京都日蓮聖人門下連合会の名の下、日蓮宗京都本山会、宗務所、法華宗陣門流本禅寺、法華宗本門流本能寺、法華宗真門流本隆寺、顕本法華宗妙満寺、

本門法華宗妙蓮寺、日蓮本宗要法寺、本門仏立宗宥清寺、日蓮法華宗(五十音順)は連名で「京都日蓮聖人門下連合会開催のご案内」を送付、三月三十日顕本法華宗総本山妙満寺で総会が開催された。これが、京都日蓮聖人門下連合会の組織的スタートであった。

今日までの歴史を振り返り、年を数えて幾星霜、昭和二十六年(一九五二)「宗教法人法」が公布・施行、同二十七年(一九五二)釈尊御降誕花まつりを奉行了たことを鑑み、これらを正式な設立と考えれば平成二十五年に設立六十周年を迎えることになる。

◆これからの門連

京都日蓮聖人門下連合会は大きな歴史と土壌の中で築き上げて来た。京都には、京都日蓮聖人門下青年会の組織があり青年僧との交流、勉強も盛んである。全国都道府県には、多くの門下寺院が存在している。今こそ地方から門下の心を弘め、門連活動の組織化を進めていく事が必要である。その目標達成が「一天四海皆歸妙法」の祖師の願業に繋がっていく。一步一步の積み重ねを希うものである。

つゆじゆ地從

◆年が明けたということ、あの想像を絶する大災害「東日本大震災」から、早一年が経とうとしているということでもある。

◆第二次大戦以来の甚大な被害とも言われる災害で、一度に大変多くの人命が失われるのを目にし、まず浮かんだのが、大聖人の「人の寿命は無常なり。出る気は入る気待つ事なし。風の前の露尚譬にあらず。賢きもはかなきも、老いたるも、若きも定め無き習ひなり」という「妙法尼御前御返事」の一節であった。◆しかしその一方で、被災地住民の方々同士、お互いに助け合いながら復興に力を注いでいる様子や、日本国内は勿論全世界から多数寄せられる復興支援に、何ら絶望するようなことではないとも教えられた。

◆メディアに取り上げられることは無いが、門連所属教団をはじめ、大変多くの宗教団体が復興支援を行っている。復興への道のりは遠い。地道に、絶えることなく続けていくことが何よりも大切であると思う。

◆臨終についての聖訓である『妙法尼御前御返事』には、「法華経の名号を持有人は、一生乃至過去遠々劫の黒業の漆塗じて白業の大善となる。況や無始の善根皆変じて金色と成り候なり。しかれば故聖霊最後臨終に南無妙法蓮華経と唱へさせ給ひしかば、一生乃至無始の悪業変じて仏の種と成り給ふ。煩惱即菩提、生死即涅槃、即身成仏と申す法門なり」と記されている。

◆将来復興が一段落したとき、生き残った人々は、残りの人生に対する不安や、死の恐怖に苛まれるのではないだろうか。そんな彼らを救わなければならないのは、大聖人の教えを信じる私達である。

(真)

《各派のページ》第二回「法華宗（本門流）宗門内外で活躍する僧侶」



大平宏龍さん

興隆学林専門学校学林長
法華宗教学研究所有長
香川県・國祐寺住職

（プロフィール）

おひら こうりょう 昭和十八年（一九四三）、香川県生まれ、早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修卒。同大学院文学研究科修士課程修了。法華宗興隆学林研究科卒。現在、興隆学林専門学校学林長。法華宗教学研究所有長。香川県・國祐寺住職。

日蓮教学に精通し、宗派を越えて広く活躍されている。著書に『日蓮聖人を読む』『法華経の略要品』『法華宗の教えを語る』（以上、東方出版）最新著に『心が温かくなる日蓮の言葉』（PHP新書）等がある。

「宗学」のハイライト

本欄の原稿を依頼されて引き受けてしまったものの、参考にと示された前号の記事をみて反省しきりである。私などよりこの紙面にふさわしい人が、私達の宗門にも多かつたのだ。

宗門内に向かつての面が大きかったと言わざるを得ない。本欄には私は不適格かと考える理由である。しかし、どういう宗教でも固有の教えはあるであろう。まして仏教の伝統宗派には宗学があり、それぞれ「宗学」することが求められていることには変わりはないと思われる。ただ現実には「宗学」の旗色は悪い。一般的仏教学から宗学は「宗派の学」であって学問でないように言われる向きがある。宗内にあっても、教学上の問題が起ったような時以外は敬遠される。私の宗学の恩師株橋日浦先生も「宗学をやっても金にならない、社会的名声を得られるわけでもない、物好きか変わり者で、人づきあいも悪いと言われるのがオチだ」とおっしゃった。「それでも誰かがやらねばならない。」それが御自身の決意であり、教え子に対する訓戒であったのだ。

私は身辺の事情で学術研究は僅かな分野に限定せざるを得なかった。悩みは「宗学」をどう考えたらよいのだろうということであった。これについて私なりの考えを持つことができるようになったのは、慶林坊日隆上人（一三八五〜一四六四）の著述に向かうようになってからである。

隆師の著作の底に一貫してあるものは、宗日蓮聖人の教学思想と隆師当時の時代思潮である天台本覚思想とを対峙し、時代思潮を厳しく批判しながら宗祖の教学思想を再確認し、それを自分のもの（自玉）としてゆくことを求めることである。この隆師の姿勢と方法こそが、隆師最大の功績は日蓮教学の存在理由を明確にした点である、という今日の評価をもたらしたのである。

宗学とは「ボク一番」の御先棒でも、単なる宗乗の伝承でもない。ましてや「宗論はどちら負けても釈迦の恥」と擲論される宗派の自己主張の理論でもない。宗学とは、宗祖が命をかけて求められた、衆生の「生死を生きる」生き方を、現代に問い続ける営為なのでないか。そうであれば「宗学」とは「宗とすべき学問」と読みかえるべきなのではないか。それが私のささやかな考察から得た結論である。

仏教各宗は各自の教学に基づきそれぞれの生き方を提示すべきであり、そのどれが地球人としてのこれからのふさわしいか、その意味での現代の宗論をすべきではないかと私は曾てある新聞に書いたこともある。



福島泰樹さん

法昌寺住職
立正大学客員教授

（プロフィール）

ふくしま やすき 昭和十八年（一九四三）、東京下谷法昌寺住職。歌人、絶叫ミュージシャン、立正大学客員教授。早稲田大学文学部卒、法華宗興隆学林研究科卒。「短歌絶叫コンサート」を創出、千三百ステージをこなす。毎月十日、東京吉祥寺「曼荼羅」で月例絶叫コンサート開催して二十七年。「日蓮紀行」を「大法輪」に連載中。近著に『わが心の日蓮』（春秋社）。

立松和平の墓

初めて会ったのは、一九七〇年三月、君は、日雇労働をしながら小説を書く貧乏学生だった。私は、修行を終えたばかりの坊主の卵で、大塚にあった宗務院の書記をしていた。酒場の樽に腰かけて君は、放浪体験を語り、全共闘を語った。やがて私は愛鷹山麓の小村柳沢の妙蓮寺に入る。初めての訪問者は君だった。寒行中の私と共に君は、題目を唱え団扇太鼓を叩き、

村を回った。傾きかけた本堂で君は、村のお婆さんたちと初めて法華経を誦した。新妻を残してのインド放浪、郷里宇都宮への都落ちと、君の七〇年代は、波瀾のうちに過ぎて行った。しかし、君は、食えなくとも書くことをやめなかった。崩壊してゆく農村を舞台にした小説『遠雷』は、作家の地歩を確かなものとした。

再起を期しての上京。報道番組「心と感動の旅」で君は一躍、国民的人気を獲得する。語り口から滲みでる木訥な人柄が、人々の心をとらえたのだ。環境問題にも積極的に取り組んだ。時代と心の闇を書き続ける作家の闘いは、昭和が平成となり、二十一世紀に至っても変わることにはなかった。

人々が足早に立ち去った連合赤軍粛清事件を、正面に見据えて書き始めたのである。しかし雑誌連載『光の雨』は、盗用問題を生み、メディアを沸かせた人気作家は、世間の苛烈な指弾に曝されることとなる。「謝るな立松！」と私は叫んだ。当事者による総括の書は、すでに歴史的資料で、断じて盗用などではない。

作家は、真摯に苦悩した。苦悩は光明をもたらせた。仏陀との出会いは、君の歩みは、「求道」へと向かってゆく。聖徳太子、木食五行、大作『道元』良寛、鳩摩羅什、そして日蓮へと君は、書き進めてゆくはずであった。そして刮目すべきは、苦難の歳月を経て君は、君の作家生命を危うくしたあの「光の雨」を美事に書き上げたことである。

毎月三日は、君が講元をつとめる下谷法昌寺の毘沙門講である。境内に建つ「たご地蔵（たご八郎）」に酒を浴びせ、私たちは新春の盃を掲げた。残念でならないのは、君が東北

地方を襲った大地震、大津波、原発事故を作家として体験せずに旅立っていつてしまったことである。行動する作家立松和平は、率先して足尾の植林運動などを手がけていたからだ。例えば、栃木県足尾は、作家の先祖の土地であり、足尾鉍毒事件に憤然と立ち向かった田中正造は、作家のライフワークであった。この地上の命あるものすべてを死地に追いやる福島第一原発事故は、足尾鉍毒事件に次ぐ国家的犯罪である。

立松、君と別れて二度目の正月を迎えた。君の不在は、真底痛。君は震災を闘うことになって、日本文学の幹をさらに太くしていたはずである。「俺、死んだら泰樹さんと墓並べて建てらんだ」と君は言った。命日の二月八日、君の墓が建つ此処法昌寺で作家の三回忌法要がおこなわれる。

団参のご用命は
大陸旅遊

時我及衆僧
俱出靈鷲山

インド・ネパールはもちろん中国シルクロード・スリランカ・ミャンマー・ラオス・ベトナム・ブータン・アンコール遺跡等へのご旅行手配もおまかせ下さい。

観光庁長官登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員
株式会社 大陸旅遊
Tairiku Tours & Leisure Co., Ltd. TEL 03-3376-2511 FAX 03-3376-5280 http://www.tairikuryoyu.co.jp mail: tlc@tairikuryoyu.co.jp
●東京本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 第2ダイヤモンドビル2階

東日本大震災からの
一日も早い復興を
心から祈念申しあげます

(平成二十四年二月現在)

日蓮宗宗務院

宗務総長	渡邊照敏	財務部長	川口智康
伝道局長	齊藤憲一	宗務総長室長	渡邊義生
総務局長	塩崎望巳	現代宗教研究所長	三原正資
伝道部長	中井本秀	参	与 渡邊一之
教務部長	川口久雄	参	与 吉田海心
総務部長	池田弁岳	日蓮宗新聞社社長	村上俊正

〒146-8544 東京都大田区池上一-1321-15
電話 〇三(三七五二)七一一五
FAX 〇三(三七五二)七一一八

法華宗(本門流)宗務院

管 長	菅 原 日 桑
宗務総長	二 瓶 海 照
庶務部長	佐 藤 義 賢
財務部長	久 永 晃 顕
布教部長	斎 藤 舜 顕
教学部長	金 井 孝 顕
	松 本 義 仙

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二-19-1
電話 〇三(五六一四)三〇五五(代)
FAX 〇三(五六一四)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長	中 村 日 玄
宗務総長	藤 崎 広 学
宗務次長	朝 倉 俊 幸
財務部長	藤 崎 行 学
教務部長	早 川 義 正
布教部長	吉 永 義 康
庶務部長	阿 曾 久 成
社会部長	飯 澤 道 安

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九-1
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	石 丸 日 然
宗務総長	佐 古 弘 文
総務部長	門 谷 光 瑞
教学部長	布 施 義 高
教化部長	佐 古 大 弦
財務部長	金 原 孝 宜
企画部長	今 井 満 良

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五-135-16
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

宗務総長	佐 藤 日 凰
宗務副総長	梅 田 日 芳
宗務副総長	伊 藤 隆 之
教務局長	亀 井 日 魁
弘通局長	長 谷 川 日 堯
総務局長	岡 本 日 盈
出版局長	藤 本 日 涌
財務局長	西 村 日 勲

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上東盛町二-〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉 儀 日 有
宗務総長	岩 崎 広 義
宗務部長	岩 崎 広 義
財務部長	原 田 智 光
教務部長	原 光 明

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上七法皇町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長	田 中 日 生
宗務総長	寺 田 完 英
総務部長	堀 田 智 泰
教学部長	堀 内 浩 善
教化部長	木 村 完 祥
財務部長	安 立 修 学
社会部長	上 田 泰 源

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上丸紋屋町三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長	松 下 日 肆
宗務総長	藤 井 日 靖
総務部長	増 田 隆 雄
宗務部長	吉 村 日 彦
財務部長	土 畑 信 教
教務部長	山 田 岳 隆
庶務部長	高 邊 晶 啓

〒602-8418 京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電話 〇七五(四五二)三三二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主	田 中 壮 谷
理 事 長	田 中 勇 一 郎
門連常任理事	本 間 直 暉
門連理事	藤 本 坦 孝
門連理事	原 田 義 彦
編集委員(門連だより)	森 山 真 治
編集委員(門連だより)	的 場 春 奈

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一-19-18
電話 〇三(三五六〇)七二二(代)
FAX 〇三(三五六〇)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長	中 村 日 玄
副 会 長	伊 丹 日 章
理 事 長	古 瀬 久 馨
副 理 事 長	藤 井 照 源

京門連事務局
〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九-1 妙満寺内
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

日本山妙法寺大僧伽

首 座	吉 田 行 典
責任役員	酒 井 天 信
同	今 井 行 康
同	池 田 行 朗
同	二 宮 和 嘉
同	木 津 博 充
同	川 岸 行 孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町八-17
電話 〇三(三四六一)九三六三
FAX 〇三(三四六一)九三六七

<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(六二)一〇一一 FAX 〇五五六(六二)一〇九四</p> <p>法主 内野 日総 総務 井上 瑞雄</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八 FAX 〇二五六(三三)〇〇五九</p> <p>貫首 石丸 正然 執事 鈴木 顯 執事 笹原 壯玄 執事 栗田 孝之 執事 荒川 公孝 執事 近藤 正義 執事 五十嵐 昭</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 8576 東京都大田区池上一―一―一― 電話 〇三(三七五)一三三三 FAX 〇三(三七五)三三五〇</p> <p>貫首 酒井 日慈 執事 野坂 法雄 役員 一同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル 紋屋町三三〇 電話 〇七五(四四)五七六二 FAX 〇七五(四四)五六六六</p> <p>貫首 田中 日生 執事 足立 真正 執事 本多 信正 書記 永岡 悠希 書記 笹木 研吾</p>
<p>多寶富士山 日蓮本山 本山要法寺</p> <p>〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八 電話 〇七五(七七)三三九〇 FAX 〇七五(七七)五九一四</p> <p>貫首 嘉儀 日有 大学頭 丹治 日遠 執事 岩崎 広義 執事 原田 智光 執事 原 光明</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三五二七 FAX 〇七五(四五)三五九七</p> <p>貫首 松下 日肆 執事 音羽 隆全 役員 一同</p>	<p>日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>日蓮聖人出家開宗の靈跡</p> <p>別当 二宮 將泰 執事 宮崎 雅宣 役員 一同</p> <p>〒299 5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一― 電話 〇四(七〇九)〇五二五 FAX 〇四(七〇九)〇五二七 団参には是非、研修会館をご利用ください。 一六〇名様まで可。</p>	<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>住職 小山 日誠 二十四世講有 執事 中西 清乘 事務局長 伊藤 隆之</p> <p>〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ノ鼻町一〇五―一― 電話 〇七五(四六三)四六二〇(代) FAX 〇七五(四六三)四六五一</p>
<p>宗祖御降誕八百年に向かつての祈り 宗祖御降誕靈場 日蓮宗大本山 誕生寺</p> <p>貫首 石川 日命 執事 村田 教清</p> <p>〒299 5501 千葉県鴨川市小湊一八三 電話 〇四(七〇九)二六二一 FAX 〇四(七〇九)二〇五五</p>	<p>日蓮宗大本山 中山法華経寺</p> <p>貫首 新井 日湛 参与 田代 浩敬 参与 渡辺 行俊 参与 植田 観樹 参与 吉田 文堯 参与 布施 慈範</p> <p>〒272 0813 千葉県市川市中山二―一―〇―一― 電話 〇四七(三三四)三四三三 FAX 〇四七(三三四)一七九六</p>	<p>日蓮宗大本山 京都八本山会</p> <p>本山 本満寺 貫首 伊丹 日章 大本山 本園寺 貫首 吉田 日厚 大本山 妙頭寺 貫首 和田 日佑 本山 立本寺 貫首 上田 日瑞 本山 妙傳寺 貫首 野々垣 日祐 本山 頂妙寺 貫首 安藤 日瑛 本山 妙覺寺 貫首 及川 日周 本山 本法寺 貫首 瀨川 日照</p> <p>〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五九)〇三〇三</p>	<p>日蓮宗靈跡本山 比企谷 妙本寺</p> <p>貫首 早水 日秀 執事 立野 正泰 山務役員 一同</p> <p>〒248 0007 鎌倉市大町一―一―一―五―一― 電話 〇四六七(二二)〇七七七 FAX 〇四六七(二五)六九六七</p>
<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>貫首 嶋田 日新</p> <p>〒166 0013 東京都杉並区堀之内三―四―八―一―八 電話 〇三(三三三)六二四一 FAX 〇三(三三三)五〇〇七</p>	<p>徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安 瑞輪寺</p> <p>貫首 井上 日修</p> <p>〒110 0001 東京都台東区谷中四―一―二―一―五 電話 〇三(三八二)四三七三 FAX 〇三(三八二)七〇三三</p>	<p>日興上人御聖廟 日蓮宗大本山 富士山法華本門寺根源</p> <p>貫首 旭 日重 執事 川名 義顕 参与 吉田 日綱 参与 井野上 正文</p> <p>日蓮門下お題目初唱の靈場 日蓮宗本山東身延 藻原寺</p> <p>貫首 持田 日勇 総務 増田 寶泉 執事 富永 一道 " 中川 貫泰</p> <p>〒297 0026 千葉県茂原市茂原一―二―〇―一― 電話 〇四七五(二二)三二五三 FAX 〇四七五(二二)一一七三</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>貫首 安藤 日瑛 参与 伊東 隆司 同 宇根 海静 同 新林 昭源 執事 藤井 照孝 執事 川合 陽雄</p> <p>〒606 8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七)〇五六二 FAX 〇七五(七五)一〇〇四</p>
<p>平成三十三年二月十六日は 宗祖御降誕八百年を 迎えます</p> <p>平成二十四年一月現在</p> 			

京都理事会開催さる



日蓮聖人門下連合会 京都理事会 平成23年11月25日 於、本山 妙傳寺

「明治の日」署名活動のお願い

合掌 各聖におかれましては、時下益々御清祥にて、為法御精進の事と大慶に存じます。日蓮聖人門下連合会におきましては、一方ならぬ御芳情にあらずかり、深くお礼申し上げます。さて、先日の門連京都理事会の席で申上げましたが、このたび小生は「明治の日推進協議会」に参加する事と相成りました。昭和二年三月三日に、明治節（十一月三日）が制定されました。この「明治節」制定運動は、国柱会創始者田中智学師が運動を起こされ、その請願運動が日本全国に広がり無事成満されたという経緯がございます。智学師は、明治天皇を「国ばかりではない、世界全体の時局の進進といふものに対抗して、よく其

の取るべきを取り、捨つべきを捨て、世の中の進歩に遅れないようにといふ其の洗煉の発揚された、是が実に尊い所である。明治天皇は国体の権化として、古往今来かつて類例を絶したる偉大な聖人であります」と称え、「明治節」を制定し、明治天皇の御聖徳を全国民が仰ぐことによつて、国民精神の啓発と、民心の向上を図る標的とされました。しかし敗戦に伴い、十一月三日の祝日は、残念な事に「文化の日」という名称に変更され今日に至っております。このような折、昨年十一月三日に「明治の日を実現しよう！ 国民集会」が有志により挙行され、「明治の日推進協議会」が塚本三郎元民社党委員長

京都理事会が十一月二十五日、日蓮宗本山京都府妙傳寺（野々垣日祐貫首）で開催され、渡邊照敏理事長をはじめとする役員、門下本山貫主猊下の五十名が出席した。先師法要では、野々垣貫主が導師となり、京都日蓮聖人門下連合会理事長藤井照源師「日蓮宗京都府第一部宗務所長」、副理事長赤田泰宏師「法華宗（本門流）大本山本能寺執事長」が副導師となり厳修参加者一同香を手向けた。法要後、本山妙傳寺の沿革を執事長谷口真也師が自身の

を会長として結成されました。当日掲げられた今後の活動目標を左に記させていただきます。

- ・ 一千万署名運動の推進
- ・ 国会議員への働きかけ
- ・ 地方における活動組織化
- ・ 日刊紙への意見広告掲出
- ・ などでございます。

小生は、この運動の一請願者として運動を展開する決意を致しました。

つきましては、日蓮聖人門下連合会所属の各御宗派におかれましても「明治の日」に改める請願の署名活動に御賛同戴きたく誌面を拝借して御願ひ申し上げます。諸事御多端のことと存じますが、何卒趣意を御理解いただき御協力賜りますよう謹んで重ねて御願ひ申し上げます。

再拜
宗教学法人国柱会
賽主 田中壯谷
(署名用紙は国柱会本部へ)

立正大学での論文を資料とし講話、歴史ある妙傳寺の沿革を紹介した。続き、理事会開催。渡邊理事長が座長となり議事を進行。一、上半期事業報告を事務局より報告。二、京都門下連合会活動報告を理事長藤井照源より報告。三、地方門連の活動報告を理事長中村日遊師より報告。殊に地方門連である大阪門下懇話会は、平成二十四年十二月六日に「結成五十年記念式典」を開催することが報告され、門連各派団体の参加が要望された。

その他の事項では、日蓮宗本山千葉鏡忍寺原日透貫主より、平成二十五年に「宗祖日蓮大聖人小松原法難七五〇年」御正當を迎えるにあたり、門連各派団体への参詣を要望された。また、日蓮宗本山千葉奥藻原寺持田日勇貫主より、オラトリオ日蓮についての現況報告がなされ、終了後には復刻版を門下連合会に寄贈し、広く門下にて活用してほしいとの要望がなされた。終了後、全日空ホテルへ場所を移し、相互の懇親を深めた。

京都日蓮聖人門下連合会結成六十周年プロジェクトを設立

京都日蓮聖人門下連合会が結成され平成二十五年に六十周年を迎えることとなり、プロジェクトチームが設立された。結成六十周年記念事業の企画立案に向けて話し合いがなされ、骨子をまとめていくこととなる。

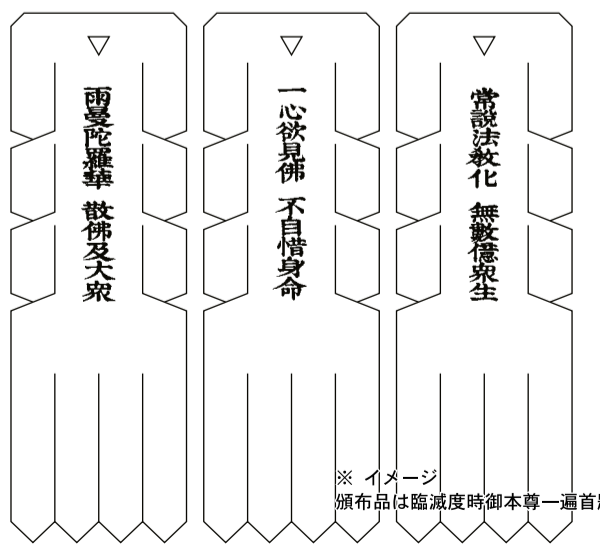
委員は下記のメンバーである。
(藤井照源)

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二四・一・一	伊丹日章 中村日玄	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成二四・一・一	藤井照源 古瀬久馨	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成二四・一・一	赤田泰宏 藤井照源	京都門下連合会	理事	就任	退任

施餓鬼小旗セット

頒布価格 **7,875 円**
(税込・送料別)

施餓鬼小旗 (約縦 202 mm × 横 67 mm)
 経文入各色 (緑・白・赤・青・黄) × 20 枚、
 臨滅度時御本尊一遍首題入 (白のみ) × 10 枚、
 経文無各色 × 20 枚 (白のみ 10 枚)
 合計 200 枚・箱入
 竹串 (約 24 cm) 100 本



お申し込みは **日蓮宗新聞社** TEL 03-3755-5271
 〒146-0082 東京都大田区池上 7-23-3 FAX 03-3753-7028

各派・教団・短信

京門連

平成二十四年度、会長 顕本法華宗本山妙満寺貫首、中村日玄現下。副会長 日蓮宗本山本満寺貫首、伊丹日章現下。理事長 顕本法華宗本山妙満寺総務 古瀬久馨師。副理事長 日蓮宗京都府第一部宗務所長 藤井照源師。一月二五日(水)午後五時理事會(本能寺文化會館)。平成二十四年度役員確認の件、平成二十三年度決算の件、平成二十三年度決算の件、平成二十四年度決算の件、平成二十四年度予算案の件、平成二十四年度総会の件、平成二十四年度降誕會の件。二月十六日(木)午後一時京門連總會(顕本法華宗本山妙満寺)。

日蓮宗

日蓮宗宗務役員に就任並びに就任証式が開かれた。新任に就任したのは伝道局長に齊藤憲一師、総務局長に塩崎望巳師、伝道部長に中井本秀師、教務部長に川口久雄師、総務部長に池田弁岳師、財務部長に川口智康師。宗務総長室長の渡邊義生師と現代宗教研究所長の三原正實は再任。また日蓮宗新聞社社長には村上俊正師が就任した。(大澤宏明)

法華宗本門流

宗門の各機関及び宗内寺院の近現代の歴史を記録として後世に残すべく「法華宗門史編纂委員会」を設立。九月七日、東日本大震災犠牲者追悼慰霊法要を法華宗管長菅原日章現下を大導師に、名取市文化會館及び閑上地区日和山にて奉修。宗内僧侶、一般檀信徒が多数参詣。十月二十四日、「昭和法難70周年記念遺徳顕彰報恩法要」を京都市大本山本能寺を会場にして、四大本山御貫首御下臨席のもと奉修。先の戦時下、宗祖のみ教えを護るために拘束され艱難辛苦に遭われた先師の遺徳を偲び、後身の我々の更なる護法愛宗の想いを強くした。平成二十四年二月八日、第二十五回法華宗教学研究発表大会が東京国際フォーラムで開催。特別企画として立正大学教授寺尾英智先生による「岡宮光長師の聖教世界」の講演、大本山本興寺貫首小西日逸現下による「東朝西隆とその後の経緯について」の特別講演が行われた。三月五日、「興隆学林専門学校」(尼崎市・大本山本興寺内)の平成二十三年度卒業式が行われる。卒業生は、行学二道に励んだ学林での経験を糧に、新たな布教の第一線に立つ。古来、門祖・日蓮聖人の教をこそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教を伝授していた「興隆学林専門学校」が平成二十四年度新入生を募集。他門流よりも受け入れる。お問い合わせは、宗務院(03-6014-9055)まで。(平田義生)

顕本法華宗

七月下旬、茨城長照寺住職・吉本栄昶師が中心となり、「自転車届け隊」を結成。九月四日、原発被害で会津若松市内に避難している大熊町の方々へ、自転車百六十台を寄付した。さらに、九月七日には浪江町の方々へ十数台を寄付。自転車は「避難所に籠らず健康的に、そして前向きに」との願いを込めてお贈りした。他にも、宗内若手僧侶を中心に様々な形で被災者の救援活動を継続している。九月四日、顕立雅楽会主催で、避難所となっていた南相馬市立原町第二中学校体育館において「復興応援コンサート」を開催。相馬市民三百人が観賞、復興への祈りを込めて奏でた雅楽の音色に涙を流す方もあった。(以上、東日本大震災救援活動報告)十月十二日、十三日の両日、中村日玄現下大導師の下、第七三〇回となる御会式が厳修された。全国から僧侶が出仕、大勢の檀信徒とともに厳かに執り行われた。十三日には、特命布教師・朝倉俊泰師(千葉覚行寺住職)より、東日本大震災被災地におけるボランティア体験を基にした熱のこもった法話があり、参詣者一同真剣に耳を傾けていた。十月二十日、総本山妙満寺において「西部教区僧侶研修会」を開催。十一月八日には千葉本行寺(住職・朝倉俊泰師)において「東部教区僧侶研修会」が開催された。布教総監・河村孝照師(元東洋大学教授・文学博士)を講師に「顕本教学について」と題する講義が行われ、出席の僧侶は熱心に聞き入っていた。講義後には、質疑応答や活発な意見交換が行われた。十月二十六日、東京天妙国寺において教学研究所主催「公開研究例会」が開催された。河村孝照師・小松正学師(教学研究所研究員、千葉経風寺住職)・藤崎裕治師(千葉大経寺住職)による興味深い研究発表があり、さらには公開講座として河村師による「宗門の歴史と深淵」の講演が行われ、各教区が持ち回りで会場となる中央行学講習会が、本年は新潟教区にて開催された。十五日は総本山本成寺において、石丸日然新管長現下のものと開講式が執り行われ、その後教区寺院を参詣した。翌十六日はホテルオークラ新潟を会場にして講義が行われた。第一講義は法華宗本門流興隆学林専門学校校長・大平宏龍先生をお招きし、「三箇の銘文、五但法門」について」と題して、お話を頂いた。また第二講義は宗内より法華宗学林元校長・松吉純員先生をお招きして「定業転」と本宗の祈禱書について」との講題でお話を頂いた。今年も百名を超える参加者が集い、教学を学ぶと共に一層の親睦を深め合った。九月三十日、「本迹同異決」会本刊行委員会が法華宗務院において開催された。十月三十一日、第百十七次臨時宗務院において開催された。十一月十二日、宗務院において法華宗(真門流)・顕本法華宗・法華宗(陣門流)の三宗による、三宗統合協議会・統合学院が開講され、三宗より多くの学生が参加し学んだ。講師は法華宗(真門流)宗学研究員・木田慧明先生で、「立正安国論」から東日本大震災を觀る「祈禱について」と題して、講義をしていただいた。十一月十七日、十八日、別院泉鳴本妙寺において研究発表会が開催された。この発表会は、宗内全教師を対象に発表者を募集し、本宗の教学・教学史・教団史をはじめ、仏教学各分野や化学など、最新の研究成果を公表し合うために開催され、本年も十二名の教師が発表し、参加者の活発な議論が交わされた。十一月十七日、宗学研究員が宗務院において開催された。十一月十八日、学林教授会が宗務院において開催された。十一月二十九日、宗務院において新任職、学生・沙弥合同研修会が開講された。新任職や学生は講義を通じて、陣門教学はもとより、講師の体験を交えた布教活動の実践などについて学んだ。(日蓮尚志)

本門佛立宗

昨年(平成二十三年)は三月十一日の東日本大震災を受け、宗務本庁(京都)に対策本部を設置。講有日識上人をはじめ宗門要路の現地視察を行うとともに、乗泉寺(東京)に前線本部を置いて支援物資を集積。被災地への物資の分配、および人材派遣を行った。宗内に呼びかけたい義捐金を二億円を上回り、被災三県(岩手、宮城、福島)と日本赤十字社に対して寄付金を送り、宗内の被災寺院や被災信徒に義捐金を届けた。七月には本山有清寺で復興祈願の大口唱会を実施。また、大震災後半年を経過して、復興資金や物資を中心とする緊急支援から、長期戦を視野に入れた弘通支援に軸足を移行。全国の布教区が被災地の寺院を個別に支援し、弘通拠点の復興と、その地域の被災者と妙法の縁を結ぶことによる「妙法の功德による復興の後押し」を開始した。平成二十五年に五百五十回御遠講を迎える門祖日蓮聖人の記念法要も、平成二十四年八月のブレ大会、同二十五年二月の御正當法要、四月の記念大法要等の日程と概要が決まり、七月には推進母体となる奉修本部が発足。平成二十四年は三年間の報恩ご奉公の最終年度でもあり、その仕上げと同時に、各種記念法要の準備が進行している。(吉田日景)

法華宗真門流

六月十八日、越前・本興寺にて、第二教区檀信徒研修会開催。六月十九日、第三教区檀信徒大講演会開催。第五十回を迎え、参加者は四百四十名を超えた。七月三日、小樽・宣誠寺にて、第二十七回合掌運動北海道大会開催。八月二十二日、札幌・札幌・日泰寺にて、支学林並びに第三種講習会開催。八月二十三日、二十九日、総本山本隆寺にて夏季講習会開催。九月九日、臨時宗会開催。総本山本隆寺で堂平成大改修等について審議。十月五日、十四日、総本山本隆寺にて、秋季学林開講。十三日には四人が新説式挙行。十月十二日、十三日、総本山本隆寺にて、お会式奉修。十二日には特別法要として「明治天皇御百年忌祭」を厳修。十月十九日、第二教区合掌の旅、護法会開催。テーマは「仏教伝来の地、総本宗日蓮題目」。十月二十六日、総本山本隆寺第一〇五世、吉田日孝現下入歴法要を厳修。十二月六日、七日、「平成二十三年定期期宗会」開催。七日には貫主推戴会が開かれた。一月一日、八日、総本山本隆寺にて年頭圓講会、法華八講開催。(森田量誓)

本門法華宗

平成二十三年九月十五日大本山妙蓮寺では本堂大屋根改修のため本堂開堂式・遷座法要が厳修された。二十年十月十二日、十三日、大本山妙蓮寺(松下日肆貫首)に於いて、宗祖日蓮大聖人御会式法要が方丈本堂にて厳修された。同十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて御開山日像菩薩御報恩法要並びに三師會・歴代上人法要が松下日肆貫首御導師のもと、奉修された。本門法華宗学院(渡辺日恩学院院长)・第百三十八回講習会を、九月十二日、第百三十一回講習会を、十一月二十八日、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開講。同布教部より、布教誌「生きる」第五十七号、信報「信行」第百七十六号を平成二十四年一月一日付で発行。(木村光正)

国柱会

平成二十三年九月三日(土)申孝園ロータスウイラ創業三十周年記念式典・祝賀会を本部二階講堂にて開催。十日(土)国柱会士任用試験、十一日(日)午前迄、十二日(月)龍口法難会慶讃法要、御聖日集會、山田友重講師担当。十三日(火)国柱会賽会、東日本大震災復興ボランティア活動参加の為東北へ(十六日迄)。十七日(土)恩師忌。常勤給仕日。午後、賽主・松下陽一・森山真治両講師補、近畿地方連合局天業館へ秋季彼岸供養会御出向泊。十八日(日)申孝園内中央有志清掃奉仕。二十二日(木)〜二十三日(金)妙宗大靈廟各局輪番常勤給仕。二十三日(祝)妙宗大靈廟例月供養会第一千回記念慶讃・秋季彼岸開願大供養会。式後記念式典開催。十月十日(月)佐渡法難会慶讃法要厳修。御聖日集會、担当、森山真治講師補。十二日(水)日蓮聖人御遠夜法要厳修。賽主以下有志、池上大坊本行寺参拝。秋法厳修講師他中央有志純正日蓮主義屋外宣伝奉行(於本門寺境内)。十三日(木)鶴林会慶讃法要厳修。十五日(土)〜十六日(日)各局輪番常勤給仕。十六日(日)妙宗大靈廟例月供養会。二十一日(金)祖廟輪番給仕先発隊、身延へ出発。二十二日(土)第四十七回大祖廟輪番給仕国柱会奉仕開講。二十三日迄、二十九日(土)賽主、松下陽一講師補、山陰・山陽地方連合局(兼川局・余子局・庭瀬局)御巡教(三十一日まで)。十一月三日(木)明治節慶讃法要。賽主先生、「明治の日を実現しよう!国民集会」へ御出席、於、ベルサール九段。若杉日出雄講師以下中央有志明治神宮参拝。五日(土)国柱会本部理事会。六日(日)賽主、東日本大震災復興ボランティア活動に御出向、松下陽一・小松原法難会慶讃法要。御聖日集會。担当、東條秀隆講師補。十二日(土)国柱会全定例協議員会開催。十六日(水)恩師田中智学先生御遠夜法要。追憶の集い。十七日(木)第七十三遠忌。恩師師子王院智学日講大居士報恩大会。式後、報恩の集い。十九日(土)〜二十日(日)各局輪番常勤給仕。合同消防訓練。二十日(日)例月供養会。二十四日(日)日蓮聖人門下連合会機関誌編集会議(於、京都妙傳寺)。二十五日(木)日蓮聖人門下連合会理事会へ賽主先生以下本部員出席。於、京都妙傳寺(森山真治)

日本山妙法寺

平成二十三年五月二十二日、熊本県花岡山弘舎利塔五十七周年記念法要を厳修。六月十一日から八月九日二〇一一年東京・広島・長崎平和行進を実施。六月十八日、英国ロンドン弘舎利塔二十六周年記念法要を厳修。六月十九日、英国ミルトンキーンズ弘舎利塔三十一周年記念法要を厳修。六月二十八日、オーストラリア国ウィーリン弘舎利塔二十八周年記念法要を厳修。七月十三日、イタリア国シチリア島コミンソ弘舎利塔十三周年記念法要を厳修。七月二十日から八月八日、核のない未来を祈る米国北西部平和行進(オレゴン州ユージンからシアトル近郊のト

日蓮聖人門下連合会

ライアント原潜基地)を実施。八月二十四日、静岡県熱海弘舎利塔五十七周年記念法要を厳修。九月十一日、新潟県佐渡弘舎利塔三十周年記念法要を厳修。十月一日、米国グラフトン弘舎利塔十八周年記念法要を厳修。十月二日、米国ニューイングランド道場新本堂開堂供養を厳修。十月八日、米国グレート・スモーク・マウンテン弘舎利塔御仏舎利奉安法要を厳修。十月十八日から三十日、二〇二二年繩平和祈念行脚(辺戸岬から摩文仁平和公園)を実施。十月二十五日、インド国王舎城弘舎利塔四十二周年記念法要を厳修。十月二十七日、インドバハイーシャリ弘舎利塔十五周年記念法要を厳修。十月三十日、インド国ターリン弘舎利塔十九周年記念法要を厳修。十一月六日から十五日、ネパール国ボカラ・ルンビニ平和行進を実施。十一月十七日、ネパール国ルンビニ弘舎利塔十周年記念法要を厳修。十一月十九日、ネパール国ボカラ弘舎利塔十二周年記念法要を厳修。十一月二十七日、千葉県成田弘舎利塔十周年記念法要を厳修。平成二十四年一月九日、導師行勝院日蓮聖人第二十八回忌追孝報恩法要を静岡県熱海道場にて厳修。

目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡協力、団結を強化することを目的とする。

事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

- 1、祖廟護持の組織強化
- 2、教育事業の提携
- 3、布教の連合強化
- 4、懇談会・研究会・講演会等の開催
- 5、各種出版物の刊行
- 6、海外布教の提携及び交流
- 7、対外的な各種の運動
- 8、その他

加盟団体

- 日蓮宗 法華宗本門流
- 顕本法華宗 法華宗陣門流
- 本門佛立宗 日蓮本宗
- 法華宗真門流 本門法華宗
- 国柱会 日本山妙法寺
- 京都門下連合会